

標準委員会 第16回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2012年5月28日(月) 10:00~11:10

2. 場 所 5東洋海事ビル 会議室B

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 岡本(部会長), 萩原(副部会長), 吉田(幹事), 新保, 山内, 宮坂, 日比, 宿谷, 坂本, 堺, 越塚, 北島, 笠原, 浦上, 上野, 岩崎, 石川(17名)

(代理出席委員) 佐田 幸一(日本原電/沼田), 湊 博一(日立製作所/西田)(2名)

(欠席委員) 市川, 山口, 金子(3名)

(説明者) 無し(0名)

(オブザーバ) 無し(0名)

(事務局) 都筑

4. 配付資料

ATC16-0 議事次第

ATC16-1 前回議事録(案)

ATC16-2 人事について

ATC16-3-1 分科会の設立提案「シミュレーションの信頼性分科会の設置について」

ATC16-3-2 シミュレーションの信頼性ワーキンググループ報告書

5. 議事内容

事務局から、開始時、委員22名中、代理委員を含めて19名が出席しており、成立に必要な定足数(15名以上)を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録(案)の確認(ATC16-1)

事務局から、前回議事録(案)について説明があり、前回議事録(案)は承認された。

(2) 人事について

事務局から、資料ATC16-2に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

1) 専門部会

①委員の退任【報告事項】

石塚 龍雄(伊藤忠テクノソリューションズ株)

②新委員の選任【決議事項】

石川 智之(伊藤忠テクノソリューションズ株)

審議の結果、石川氏の選任が決議された。

(3) 【審議】平成24年度 分科会の設立提案

「シミュレーションの信頼性分科会の設置について」

笠原委員から ATC16-3-1 に基づき、シミュレーションの信頼性分科会の設置についての提

案説明があった。

本件は、原子力分野におけるシミュレーションの信頼性に対する方法論についての学会標準を制定するため、別紙委員によって構成される標記分科会を設置する提案である。

スケジュールは平成 24 年 6 月に分科会を設置し、平成 25 年 12 月に中間報告、平成 26 年 6 月に制定、学会標準の公衆審査、決定の予定である。

本分科会の設置は審議の結果承認された。

但し、本分科会の委員に関しては推薦書が準備されていなかったため(事務局の手違い)、岡本部長、萩原副部長、石川委員の 3 名に推薦書の確認を一任することで了解された。そのため、6 月 15 日の標準委員会の 1 週間前を目途に笠原委員が各推薦書を準備し、前記 3 名にメールで送付することとなった。その後、メール審議でオーソライズする。

本件に関する主な質疑等は以下の通りである。

Q. 委員構成で流体・熱流動が多いと思われる。

→先行のワーキンググループの委員と同じ構成としたが、必要に応じて構成は見直す。

Q. ASME V&V10, 20 とかなり異なるようだが。

→ASMEV&V10 は構造、20 は流動・伝熱と個別の課題を扱っているが、今回提案の標準では個別の課題ではなく、原子力分野に関わる分野の共通した課題をまとめる構想である。個別課題はその後順次加えていく。これは事前の WG 委員の総意による。

Q. 個別課題を具体的に書かないと役に立たないのでは？

→ 共通課題をまとめた後に順次作成していく予定である。

Q. 分野によって精度が異なる。 各分野どの程度許容されるのか

→例えば核計算では 0.5% 程度、安全解析は 20~30% 程度でも許容されると思うが、その件に関しては、この分科会の中で検討する必要がある。

Q. 遮蔽はスコープに入るか

→委員の中に専門家もおり、ニーズがあれば入れる。

Q. 適用範囲が広く、どこまで広げるのか

→シビアアクシデントは熱流動分野の発展形であり、考慮する予定である。津波等も土木分野等で議論だれているが、原子力分野としても検討する必要がある。必要に応じて委員の補充もありうる。

6. その他

次回専門部会は、追って連絡することとなった。

以上